2026年11月13日

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

2027年6月期第1四半期決算説明資料

上場市場 ： 東証スタンダード 札証

証券コード： 9450



©Fibergate Inc. all rights reserved.

目次

- 2027年6月期1Q決算実績 _P4
- 2027年6月期決算見通し_P17
- Appendix _P27

©Fibergate Inc. all rights reserved.

ポイント

2027/6期1Q実績

全社動向	ホームユース事業	ビジネスユース事業	再生エネルギー事業
経常利益　前年比 **+7.5%** 通期想定進捗率24%	営業利益率 **19.4%** （20%割れはコロナ以来）	1Q営業利益率 **24.0%** （4Q実績24.5%）	売上高成長率 **+6.7倍** （利益貢献には至らず）

2027/6期見通し

全社業績動向	ホームユース事業	ビジネスユース事業	再生エネルギー事業
経常利益は見通し **据置き** （前年比微増益）	セグメント利益 **増益転換** 懸念材料はコスト上昇	案件計上一巡で 減益見通し **仕込み局面**	売上高/営業利益 想定（億円） **13.8/0.08**

©Fibergate Inc. all rights reserved.

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

2027年6月期1Q決算実績

©Fibergate Inc. all rights reserved.

2027/6期1Q連結決算概要

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

- 2027/6期1Qは前年比12%増収、8%経常増益。売上面では全部門が押し並べて順調に推移。主力のホームユースの伸長に加え、注力する再生エネルギーは四半期売上が遂に1億円を突破。ビジネスユースも1Qでは過去最高売上を更新
- 損益面では部門別にまだら模様。ホームユースはコスト上昇が響き減益。一方、ビジネスユースは1Qでの過去最高益を計上。再生エネルギー他ではまだ営業赤字は残るものの、赤字幅は大きく縮小。通期見通しの進捗率は営業利益で24%。ほぼ巡航速度

(百万円) 注：百万円未満切り捨て0.1%未満四捨五入	2025/6期 1Q実績	2026/6期 1Q実績	2027/6期1Q			2027/6期通期	
			実績	前年差異	前年比	見通し	進捗率
売上高	3,054	3,456	**3,882**	+425	+12.3%	16,500	23.5%
ホームユース	2,643	2,752	**2,952**	+200	+7.3%	12,560	23.5%
ビジネスユース	405	389	**461**	+72	+18.6%	1,810	25.5%
不動産	4	296	**339**	+43	+14.5%	750	45.2%
再生エネルギー他	0	19	**128**	+109	6.7倍	1,380	9.3%
営業利益	463	412	**448**	+36	+8.8%	1,870	24.0%
ホームユース	668	591	**575**	▲16	▲2.7%	2,790	20.6%
ビジネスユース	72	82	**110**	+28	+34.8%	420	26.4%
不動産	▲0	26	**28**	+2	+8.3%	55	51.7%
再生エネルギー他	▲7	▲42	**▲27**	+14	赤字縮小	8	-
調整	▲269	▲245	**▲238**	+6	+2.7%	▲1,403	17.0%
経常利益	458	407	**437**	+30	+7.5%	1,820	24.1%
経常利益率	15.0%	11.8%	**11.3%**	▲0.5pp	–	11.0%	-
親会社当期純利益	310	286	**287**	+0	+0.2%	1,140	25.2%

©Fibergate Inc. all rights reserved.

連結決算概要　四半期別推移

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

- 前年4Qとの比較でも増収増益。増収は不動産売却が特に貢献、再生エネルギー他も拡販努力もあり増収に寄与。増益には調整勘定（本社費用）の減少が大きく影響。本社費用の減少は、前4QでM&A関連費用などを計上したことの反動
- 1Qの経常利益率は11.3%。前4Qは大きく利益率が低下したものの、1Qでは反発

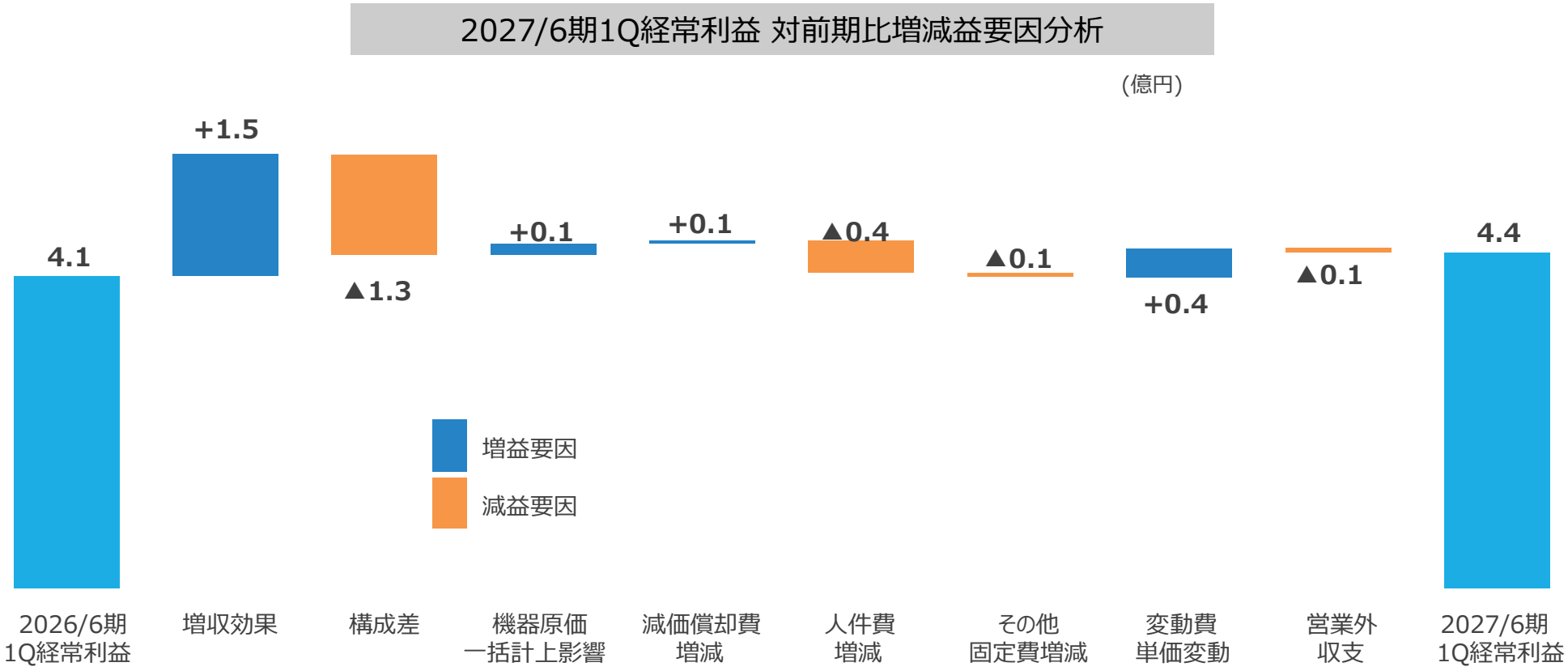
(百万円)	2025/6期				2026/6期				2027/6期	1Q/前4Q比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	**1Q**	
売上高	3,054	3,502	3,265	3,248	3,456	3,317	3,587	3,302	**3,882**	+579
ホームユース	2,643	2,642	2,835	2,743	2,752	2,811	2,929	2,841	**2,952**	+111
ビジネスユース	405	410	415	452	389	444	576	418	**461**	+43
不動産	4	436	▲0	0	296	0	0	0	**339**	+339
再生可能エネルギー他	0	13	14	51	19	62	82	42	**128**	+86
営業利益	463	515	542	436	412	507	567	351	**448**	+96
ホームユース	668	662	665	640	591	695	633	640	**575**	▲65
ビジネスユース	72	78	89	86	82	122	191	102	**110**	+8
不動産	▲0	73	▲1	▲3	26	▲1	▲1	▲3	**28**	+31
再生可能エネルギー他	▲7	0	1	4	▲42	▲45	▲18	▲35	**▲27**	+7
調整	▲269	▲299	▲212	▲292	▲245	▲262	▲237	▲352	**▲238**	+113
経常利益	458	510	542	431	407	501	557	345	**437**	+92
経常利益率	15.0%	14.6%	16.6%	13.3%	11.8%	15.1%	15.5%	10.5%	**11.3%**	+0.8pp
親会社当期純利益	310	344	369	295	286	335	373	85	**287**	+201

注：百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入

©Fibergate Inc. all rights reserved.

経常利益　増減益要因分析

- 1Q経常利益は、前年比で0.3億円の増加。ホームユースや再生エネルギー等による増収効果に加え、販売・支払手数料や業務委託費用などの効率運用を推進した結果、それらに伴う変動費抑制も貢献。なお、これまで重石となっていた機器売切方式の影響はほぼ一巡
- 一方、損益悪化要因では新規連結となった工事施工関連原価が嵩んだうえ、比較的利益率の低い事業のウエイト増加などが構成悪化として影響。人材確保・採用を意識しての人件費上昇も収益の重石に。しかし、これらは上記増益要因で吸収



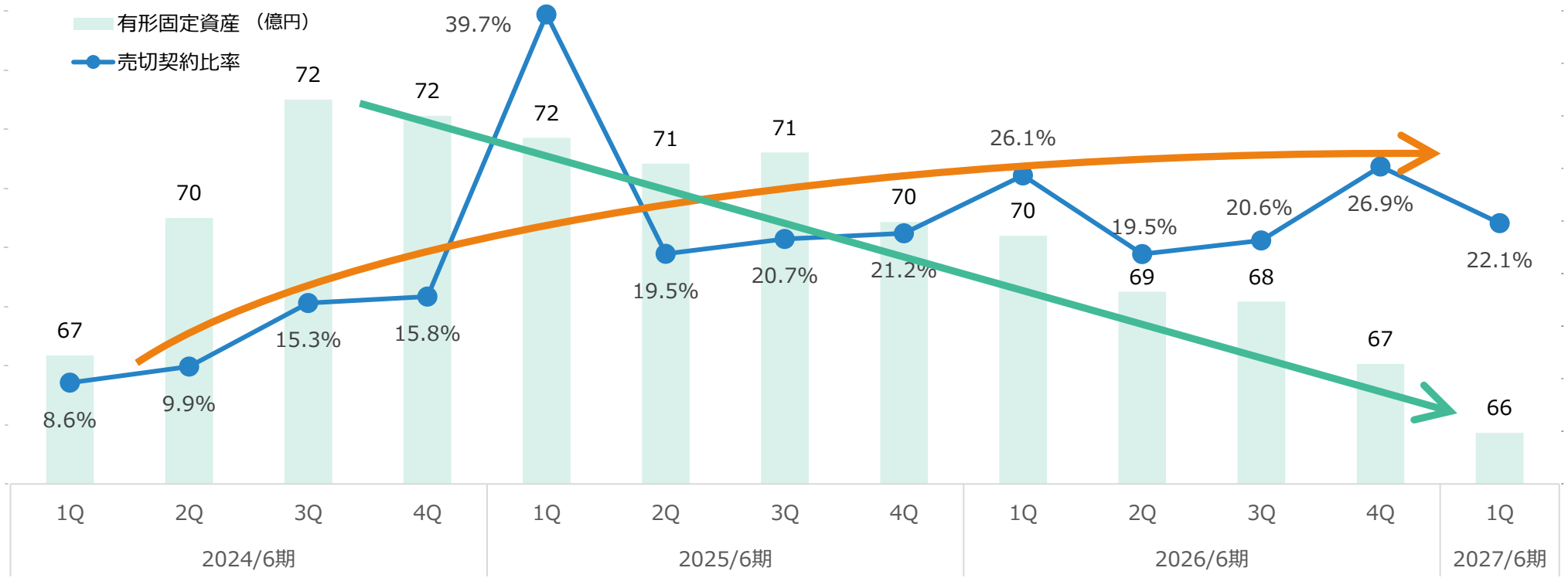
©Fibergate Inc. all rights reserved.

機器売切方式の影響

ホームユース事業

- ホームユース事業では機器売切方式導入に伴い、サービス提供開始戸数に占める売切契約比率は2024/6期後半より急速に上昇
- 売切契約ではフロービジネスの期間損益は採算悪化となるため（一方、ストックビジネスは改善も、影響度では採算悪化の吸収に至らず）、過去2期ではこれらの影響が収益の重石となる構造で推移
- ただし売切契約比率は、2026/6期より、徐々に25%程度で安定化。それに伴い、収益攪乱要因としての機器売切方式の影響は一巡

ホームユース事業　サービス提供開始戸数に占める売切契約の比率推移



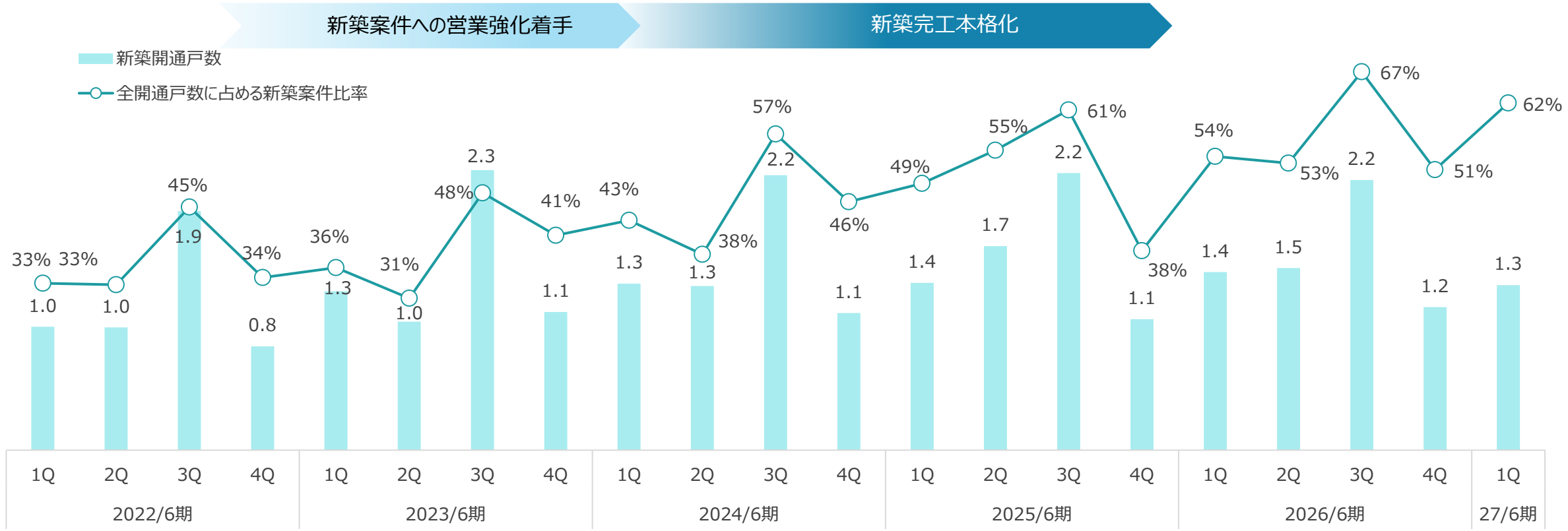
©Fibergate Inc. all rights reserved.

開通戸数内訳

ホームユース事業

- 2027/6期1Qの新築案件開通戸数は、季節要因の反動もあり、対前4Qで増加。全開通戸数に占める新築案件比率は62%と、新築案件シフトは進捗。ただし、季節要因の影響を排除した前年比較では7%の戸数減。全国的な新造住宅の減少傾向が影響
- むしろ留意すべきは、戸数減ながら新築比率が上昇したということ。これは既築案件が新築以上に減少しているということ。そもそも新築強化は既築案件需要の減衰を想定したものながら、既築案件の調整局面入り本格化懸念高まる

ホームユース事業 新築案件開通戸数推移



注：2022/6期1Qの新築開通戸数を1とした場合の指数表示

©Fibergate Inc. all rights reserved.

クロスセル状況

ホームユース事業

- クロスセルはホームユース事業の成長ドライバーとの位置付けながら、直近はやや失速。1Qのクロスセルフロー売上実績は10四半期ぶりに前年同期比で減少。ホームユース事業のフロー売上に占めるクロスセル比率も1Qは12%に調整
- クロスセルの進む主な商材は、引続き防犯意識の高まりに対応したネットワークカメラ。新築案件ではカメラの同時設置が既に一般的ながら、新築件数減の影響は拭えず。カメラ以外の商材も現時点ではまだ成長フェーズには至っていない状況

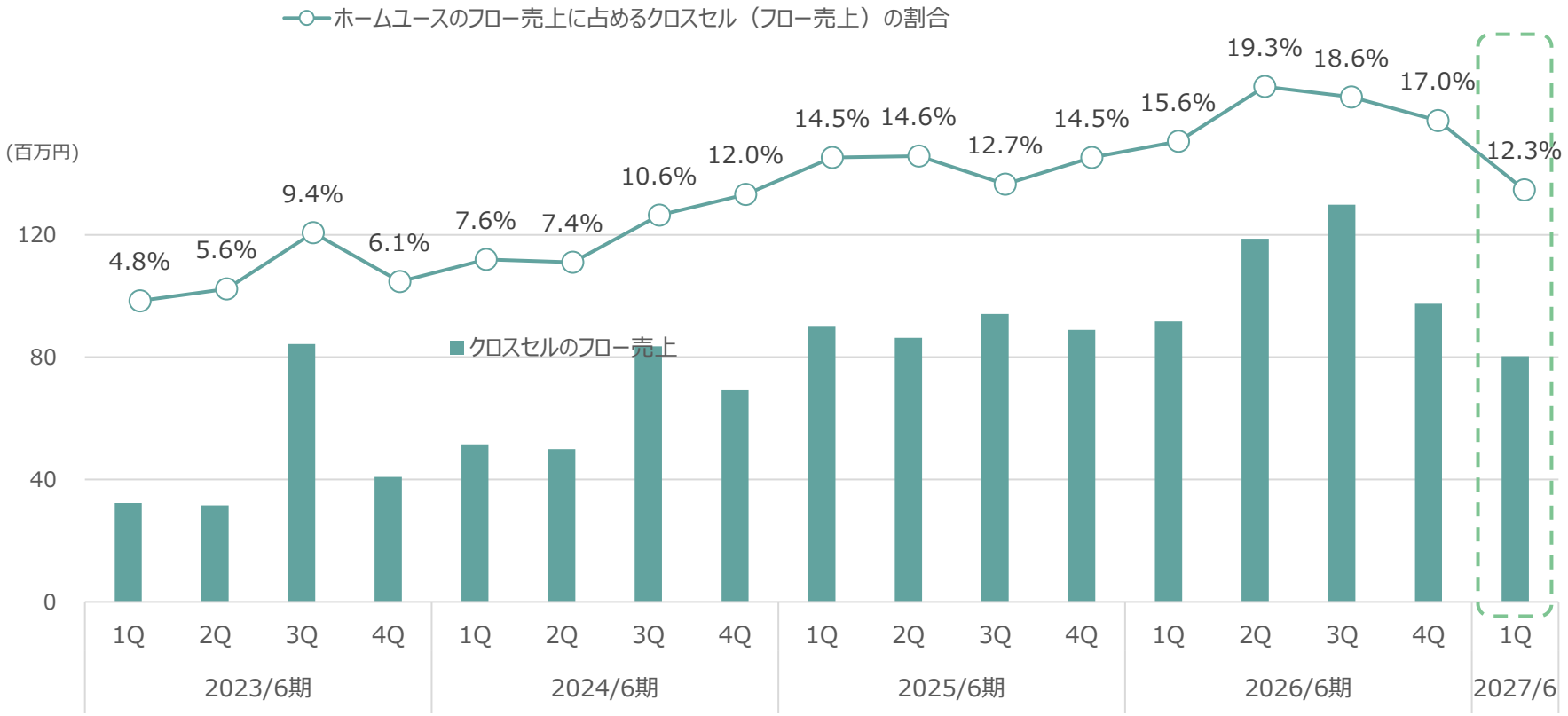
ネットワークカメラ



FGTV



クロスセルのフロー売上推移



FGスマートコール





宅配BOX

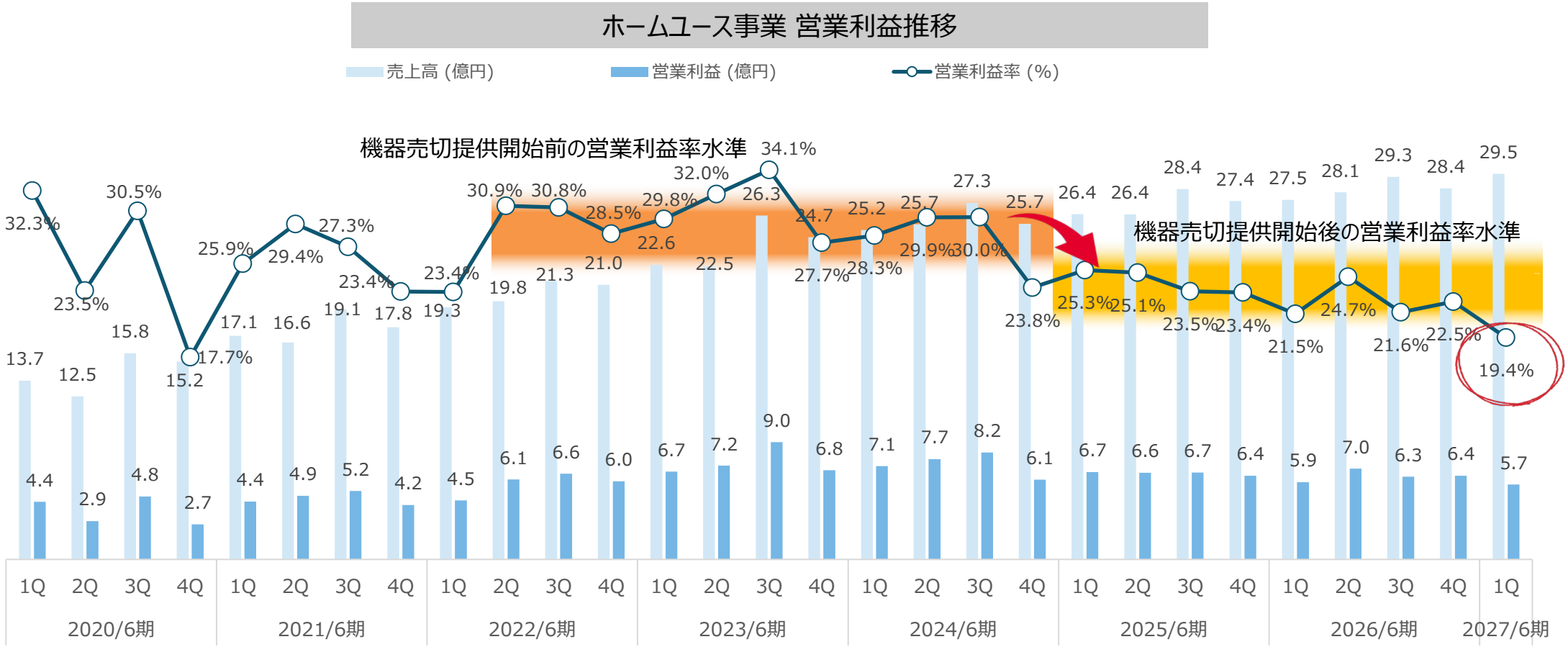


©Fibergate Inc. all rights reserved.

営業利益率

ホームユース事業

- 1Qの営業利益率は19%。四半期ベースとはいえ、利益率20%を割り込むのはコロナ禍以来。直近2年の営業利益率ボックス圏の下限を下回る水準に。この主因は、人件費などのコストアップと新規連結となった施工管理会社の原価増加
- 工事原価の増加には、施工管理会社買収後のPMI関連コストが影響。ただし、これらは一過性要因であり、この影響を除けば1Qの営業利益率はボックス圏内を維持していたと分析する。今後は施工管理会社とのシナジー発現とコストに見合った売値の確保が経営課題に



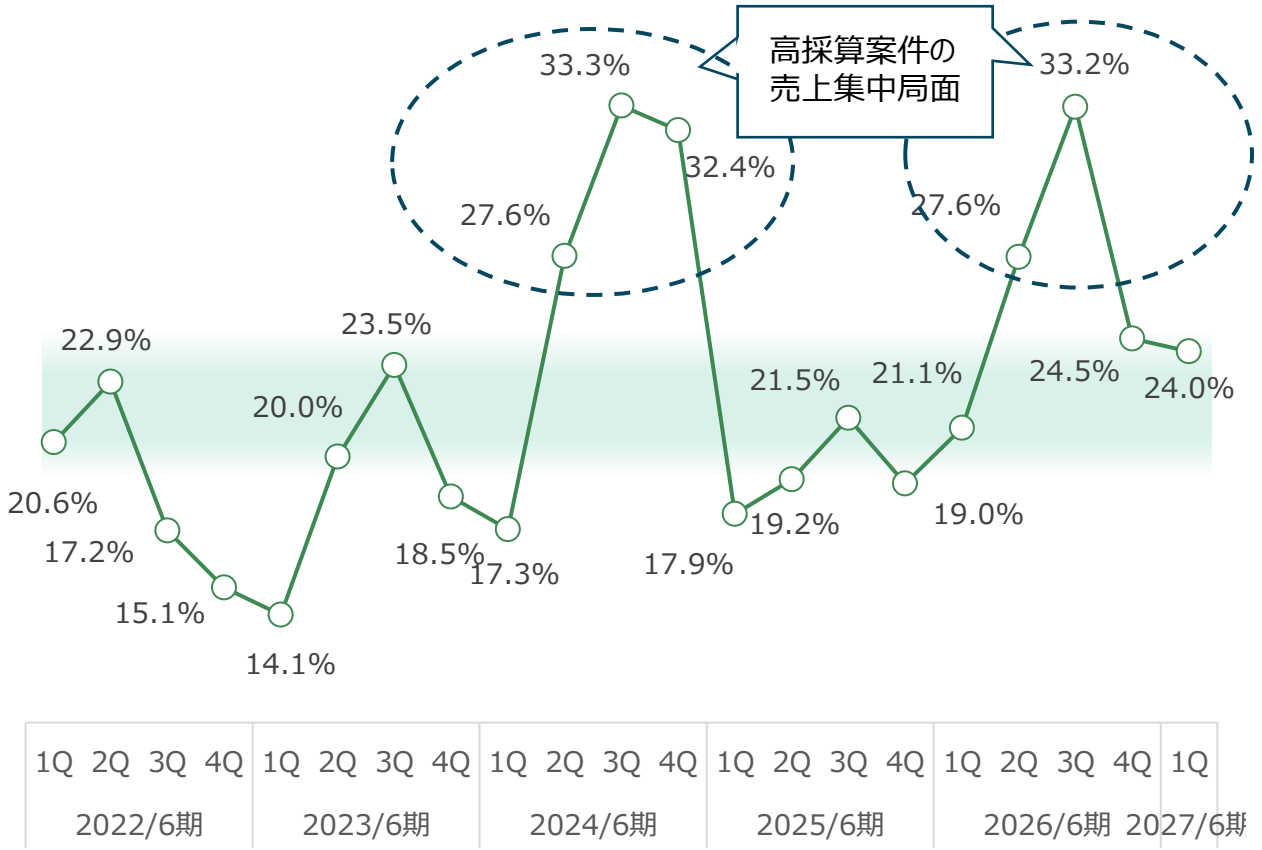
©Fibergate Inc. all rights reserved.

営業利益率と顧客内訳

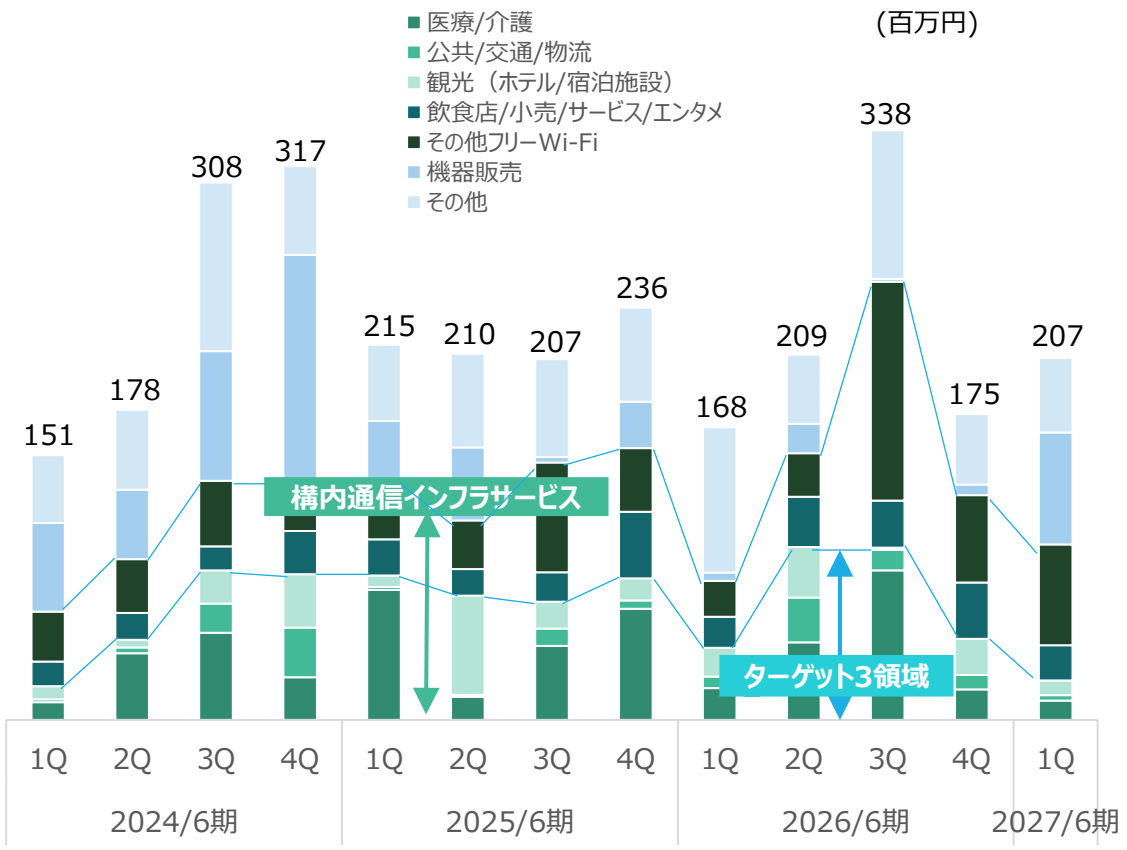
ビジネスユース事業

- ビジネスユース事業の1Q営業利益率は24%。急伸した前3Qの水準からは低下となるものの、その他フリーWi-Fiでのプロジェクト効果もあり、高い水準を維持
- 先行指標たるフロー売上は、機器販売の拡大を牽引役に4Q比で増加。ただし、ターゲット領域/構内通信インフラサービスの売上は揃って減少。季節要因を除いた前年比で見てもこれらの伸長ピッチは鈍い。受注残は積み上がるも、新規案件獲得ピッチにまだ加速感出ず

ビジネスユース事業　営業利益率の推移



ビジネスユース事業　フロー売上の内訳推移



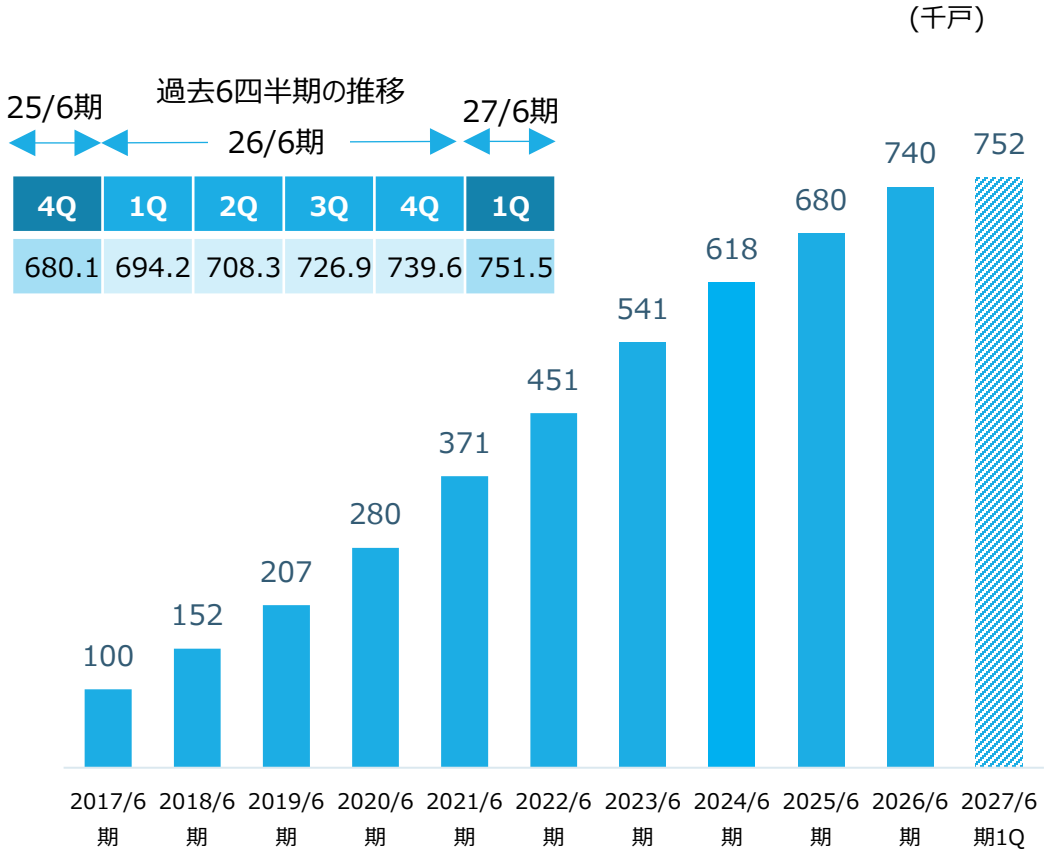
©Fibergate Inc. all rights reserved.

主要指標の推移

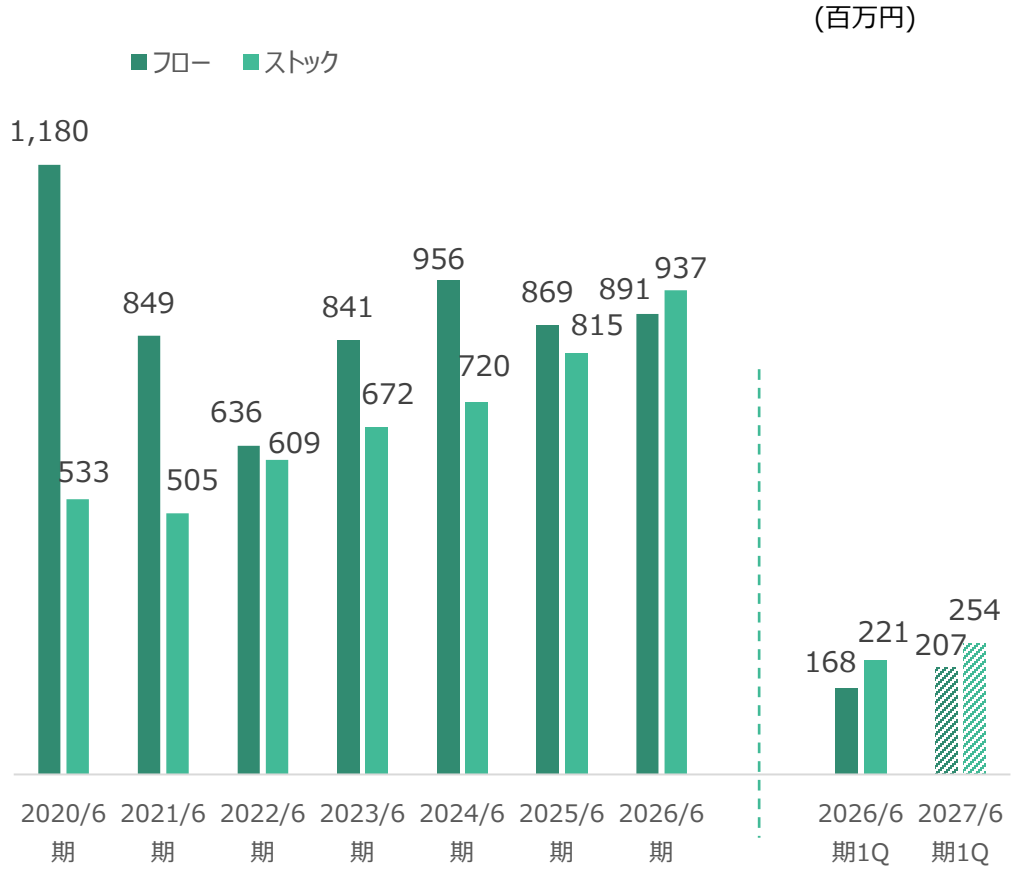
ホームユース事業　ビジネスユース事業

- レジデンスWi-Fiの1Q接続済戸数は約75万戸。接続済戸数増加ピッチは1.2万戸/四半期と、これまでより減速
- ビジネスユースでは、1Qのフロー売上は前年比15%の拡大。前2026/6期に引続き、1Qもフロー売上はストック売上に満たない状況。フロー売上はストック売上の先行指標でもあるため、フローが売上を牽引する状況への回帰を急ぐ

レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数の推移



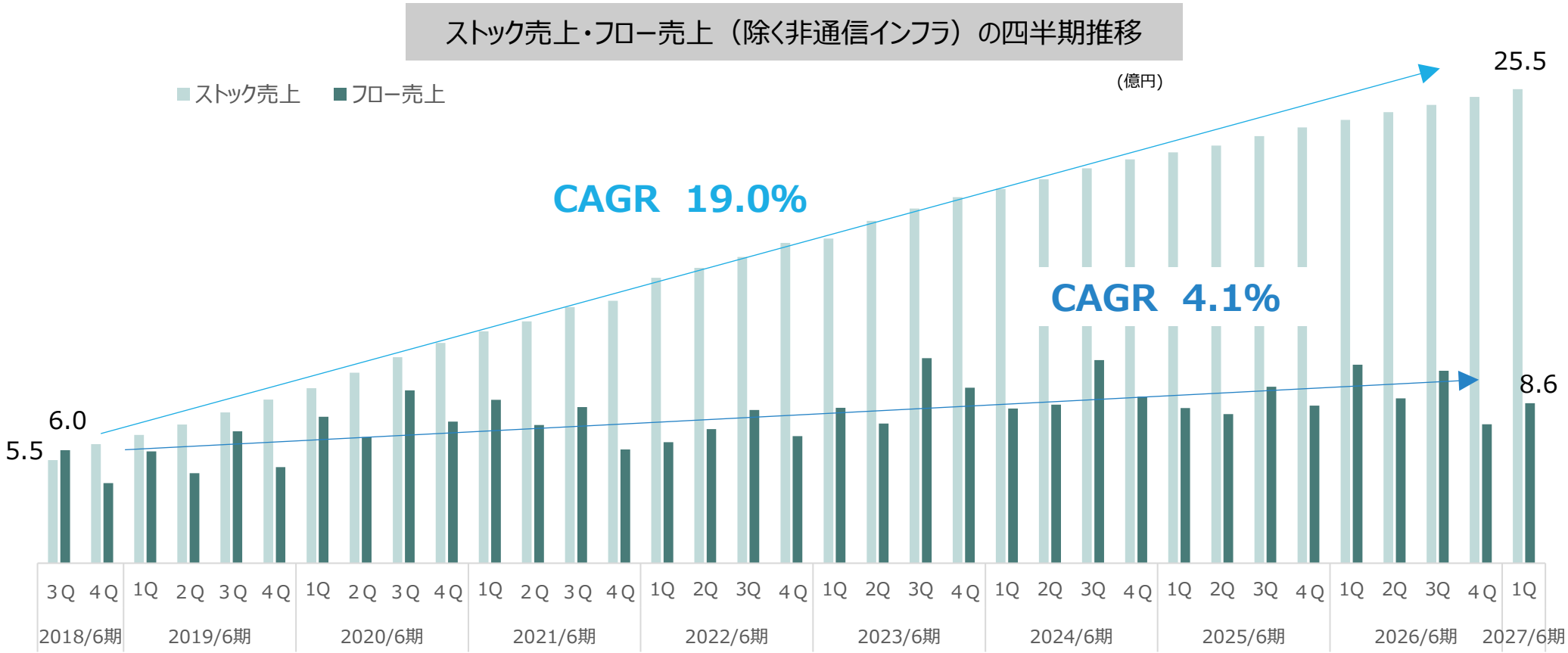
フロー/ストック別ビジネスユース売上高推移



©Fibergate Inc. all rights reserved.

＜参考＞ストック売上・フロー売上の推移

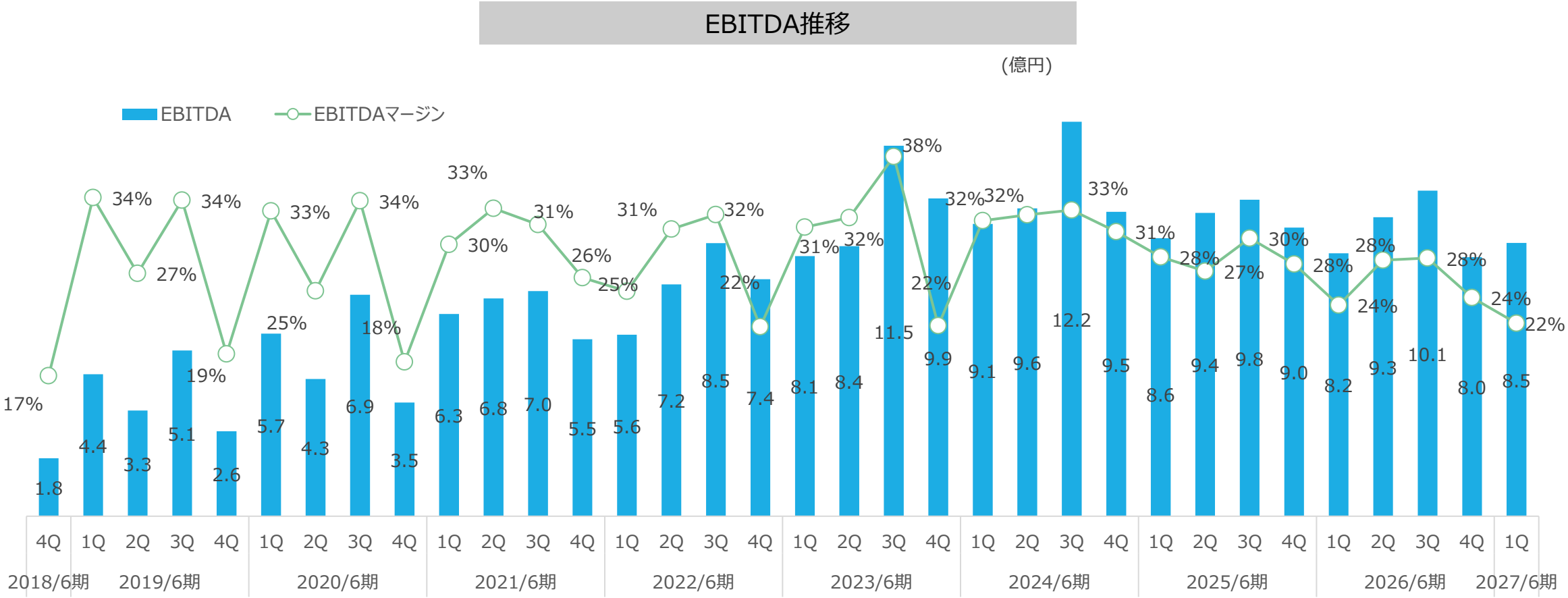
- ストック売上の積上げは順調。増収トレンドはこれで上場来34四半期連続。CAGRは約19%
- フロー売上もボックス圏内での一進一退に変化なし。1Qは季節要因から大幅に減少した4Qの反動から増収となるも、反発力は鈍い。引続き、フロー売上のボックス圏上限打破が必要と認識



©Fibergate Inc. all rights reserved.

EBITDA推移

- 1QのEBITDAは8.5億円。前4Q対比では増加したものの、前年同期比ではほぼ横ばい水準
- EBITDAマージンは22%。決して低くはないとの認識ながら、直近13四半期では最低の水準。2024/6期以降続いている現金創出力の漸減基調は依然として変化なし



©Fibergate Inc. all rights reserved.

貸借対照表

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

- 総資産は前期末比で8.7%増加。前々期末比では17%と、この2期で総資産は急速に拡大
- 資産増の主因は不動産在庫の増加。好条件の不動産取引案件獲得がその背景。その一方、貸し方では有利子負債が見合いで増加。1Qのネットデットは29億円に増加し（4Q末15億円）、売上拡大に向けて積極的に資金を投入する方針を推進
- 1Q末の自己資本比率は49.2%。前4Q末の53%からは低下となるも、財務健全性に支障なし

(百万円)	2024/6期	2025/6期	2026/6期	2027/6期 1Q	前期末比 増減
流動資産	5,339	4,707	5,930	7,222	+1,292
現預金	2,120	1,853	2,156	2,117	▲39
売掛金	1,772	1,809	1,986	1,928	▲58
棚卸資産（通信）	666	578	482	763	+281
棚卸資産（不動産）	489	212	717	1,812	+1,094
固定資産	7,736	7,436	7,167	7,017	▲149
有形固定資産	7,200	6,998	6,728	6,597	▲131
総資産	13,076	12,144	13,097	14,240	+1,142
負債	7,240	5,641	6,102	7,231	+1,128
有利子負債	4,442	3,245	3,706	5,059	+1,353
契約負債	1,317	987	727	682	▲45
純資産	5,836	6,502	6,995	7,009	+14
負債純資産合計	13,076	12,144	13,097	14,240	+1,142

厚めの運転資金を継続

機器在庫の整理

不動産関連の仕込み加速

Wi-Fi関連設備の売切方式採用が影響

運転資金増に対応

自己資本比率49.2%

*百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入

©Fibergate Inc. all rights reserved.

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

2027年6月期決算見通し

©Fibergate Inc. all rights reserved.

2027/6期連結決算見通し①

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

- 2027/6期の見通しは従来想定を据置き。21%増収、経常微増益を見込む。増益確保実現への強い決意に変更なし
- セグメント別には、案件が一巡したビジネスユースが仕込み期となる一方、ホームユースでは既存顧客積上げの加速やクロスセルの再加速、再生エネルギーの案件増などを想定。ホームユースでは次のフェーズの事業展開へのシフトを急ぐ

(百万円)	2024/6期 実績	2025/6期 実績	2026/6期 実績	2027/6期 見通し	対前年比較	
					差異	変化率
売上高	12,613	13,070	13,664	**16,500**	+2,835	+20.8%
ホームユース	10,386	10,864	11,334	**12,560**	+1,225	+10.8%
ビジネスユース	1,675	1,684	1,827	**1,810**	▲17	▲1.0%
不動産	523	441	296	**750**	+453	2.5倍
再生エネルギー他	27	79	206	**1,380**	+1,173	6.6倍
営業利益	2,387	1,958	1,838	**1,870**	+31	+1.7%
ホームユース	2,910	2,638	2,560	**2,790**	+229	+9.0%
ビジネスユース	480	326	498	**420**	▲78	▲15.8%
不動産	57	67	18	**55**	+36	2.9倍
再生エネルギー他	7	▲0	▲142	**8**	+150	黒字転換
調整	▲1,068	▲1,073	▲1,097	**▲1,403**	▲305	▲27.8%
経常利益	2,395	1,943	1,811	**1,820**	+8	+0.5%
経常利益率	19.0%	14.9%	13.3%	**11.0%**	▲2.2pp	-
親会社当期純利益	1,567	1,319	1,082	**1,140**	+57	+5.3%

百万円未満切り捨て　0.1%未満四捨五入

©Fibergate Inc. all rights reserved.

2027/6期連結決算見通し②

- 1Q実績を差し引いた2Q-4Q決算に注目すると、前年同期比で24%増収ながら、営業利益は横ばいとなる見通し
- 増収を牽引するのは、ストック顧客の積上げ見込むホームユースと再生エネルギー。ただし、損益的にはホームユースで増収効果をコストアップや工事原価計上が相殺。再生エネルギー他は黒字転換を見込むも、ビジネスユースの好採算案件減少のカバーに留まる見通し

(百万円)	2026/6期実績		**2027/6期見通し**		2Q-4Q 対前年比較	
	1Q	2Q-4Q	1Q実績	**2Q-4Q**	差異	変化率
売上高	3,456	10,207	3,882	**12,617**	+2,410	+23.6%
ホームユース	2,752	8,581	2,952	**9,607**	+1,025	+12.0%
ビジネスユース	389	1,438	461	**1,348**	▲90	▲6.3%
不動産	296	0	339	**410**	+410	-
再生エネルギー他	19	187	128	**1,251**	+1,063	6.7倍
営業利益	412	1,426	448	**1,421**	▲4	▲0.3%
ホームユース	591	1,969	575	**2,217**	+247	+12.6%
ビジネスユース	82	416	110	**309**	▲107	▲25.8%
不動産	26	▲7	28	**26**	+33	黒字転換
再生エネルギー他	▲42	▲99	▲27	**35**	+135	黒字転換
調整	▲245	▲852	▲238	**▲1,164**	▲311	▲36.6%
経常利益	407	1,404	437	**1,382**	▲22	▲1.6%
経常利益率	11.8%	13.8%	11.3%	**11.0%**	▲2.8pp	-
親会社当期純利益	286	795	287	**852**	+57	+7.2%

百万円未満切り捨て 0.1%未満四捨五入

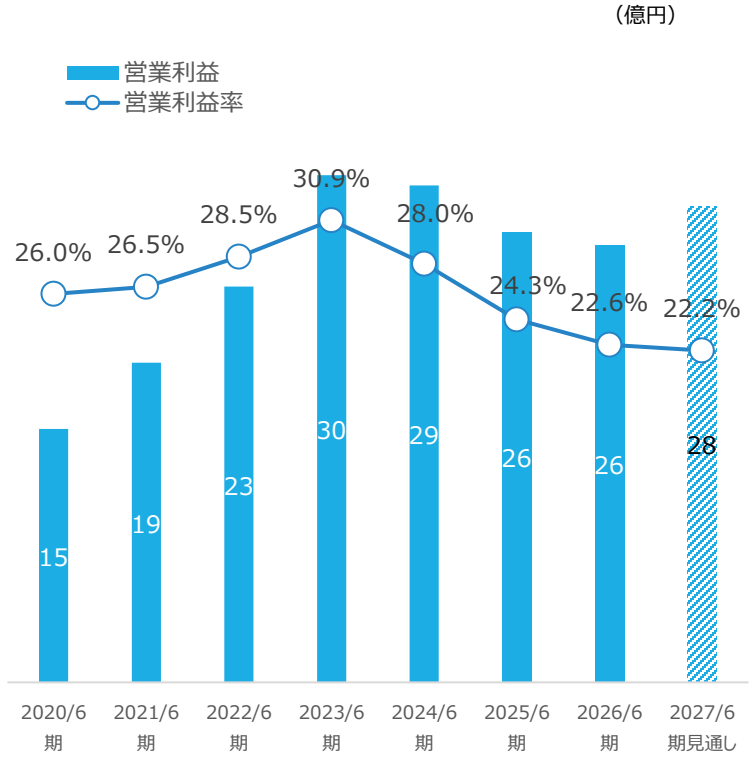
©Fibergate Inc. all rights reserved.

2027/6期連結決算セグメント別見通し

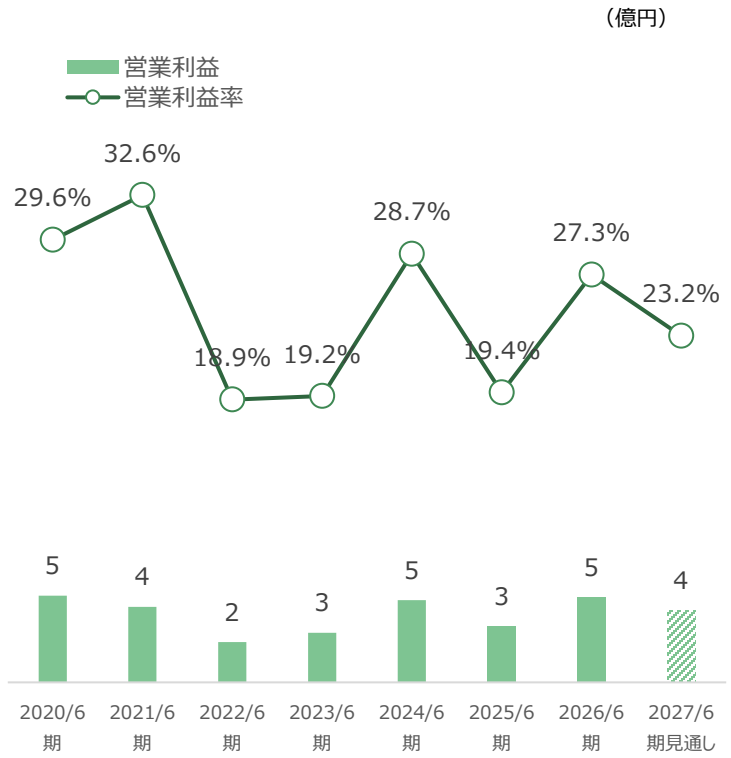
Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

- ホームユースは増益転換を想定。ストック顧客の積上げ見通しは従来通り。ただし、急激なコストアップがリスク要因として浮上
- ビジネスユースは案件仕込み期と位置づけ、損益的には端境期。介護・観光などは引続き重点分野として顧客開拓を継続
- 再生エネルギーも黒字浮上を予想。M&Aによる工事機能確保も加わり、実需への対応力を引上げ

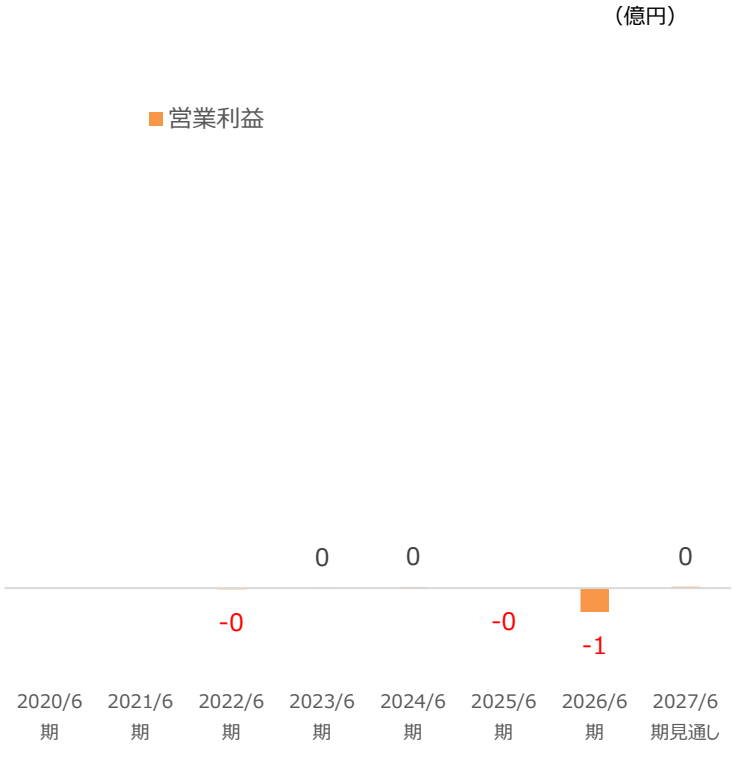
ホームユース事業



ビジネスユース事業



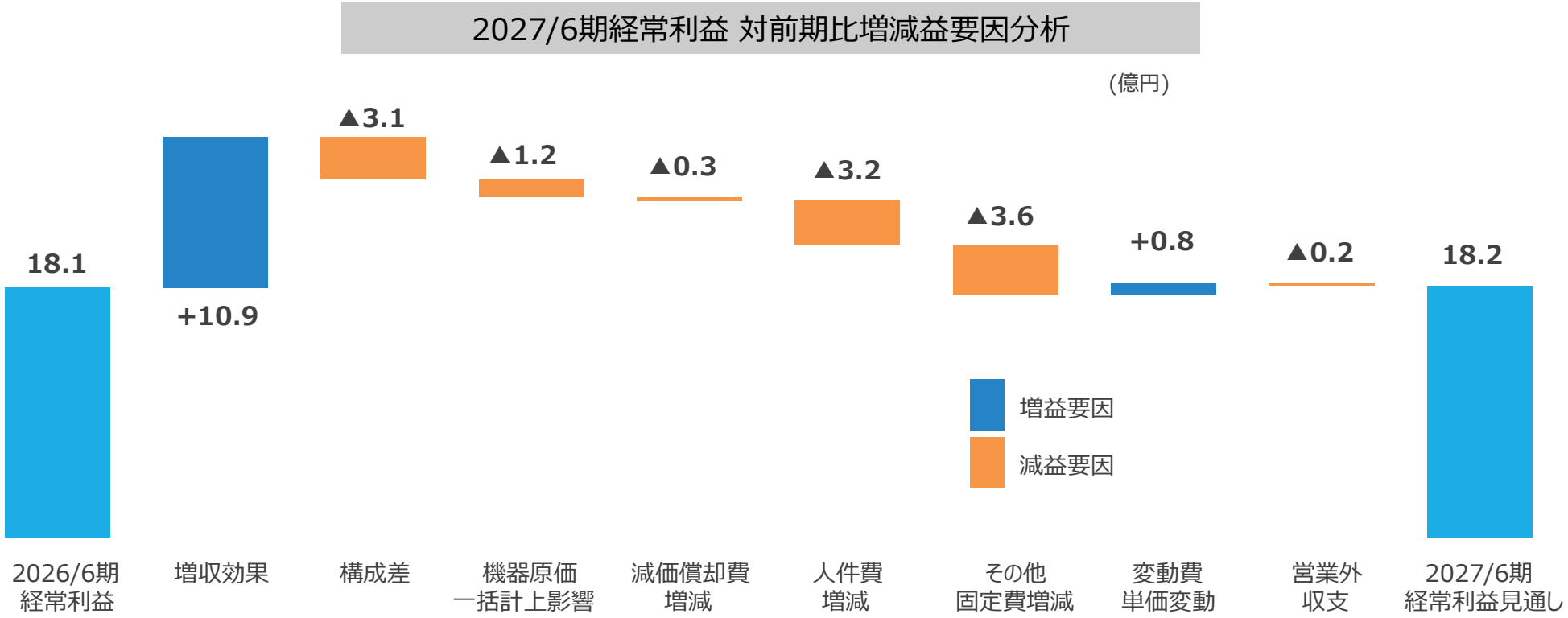
再生エネルギー他



©Fibergate Inc. all rights reserved.

経常利益　想定増減益要因分析

- 経常増益を牽引するのは増収効果。その一方、仕込み局面入りとなるビジネスユースの影響が構成悪化に繋がる他、新規連結となった工事施工の原価計上、人件費を含む固定費の上昇などが足枷となるものの、それらを増収効果で吸収する見通し。なお、人件費以外の固定費ではシステム関連費用を計上の予定。業務効率化に向けての投資は積極的に計上を計画
- 増収効果では、ホームユースではストック案件の積み重ねに加え、新築案件やクロスセル案件の拡大が貢献。買収影響の一巡や売上案件の増加を見込む再生エネルギーも大きな寄与を想定。なお、これまで上昇傾向にあった回線調達コストなどはその傾向がやや鈍化



©Fibergate Inc. all rights reserved.

ホームユース事業利益率引上げ

ホームユース事業

Fibergate Inc. 株式会社ファイバーゲート

ホームユース利益率引上げに向けて**3つの施策を強化・加速**
そのほとんどは**既に着手・実行済**であり、一定のタイムラグを経て利益率改善への寄与顕在化へ

① 新規商材の投入

✓ ヘビーユーザー向けB2C契約の本格化

- ソニーネットワークコミュニケーションズ㈱との資本業務提携

✓ クロスセルの再加速

- 営業強化による新規ユーザー開拓
  新築に限らず、既築物件にも攻勢
- 既存顧客へのアップセル追求
  複数のクロスセル商材を訴求

- 再生エネルギー販売を強化
  セグメントは再生エネルギー



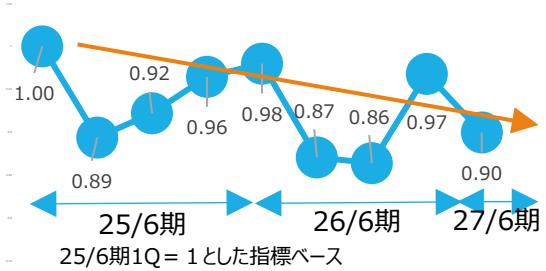
② 生産性の向上

✓ システム刷新よる運用負担抑制

システム刷新投資
0.4億円

✓ 最適運用追求による変動費単価（除回線費用）引下げ

変動費調達単価推移（除回線費用）



③ M&A効果の発現

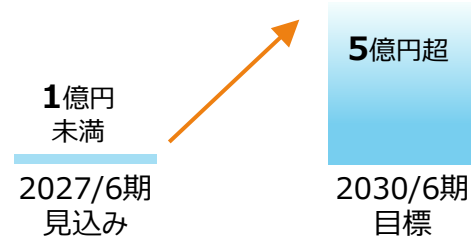
✓ PMIの早期完了とシナジー追求

Fibergate Inc. 株式会社ファイバーゲート ✖ SINCE1978 AIWA

当期計上見込みのPMI費用
0.1億円程度

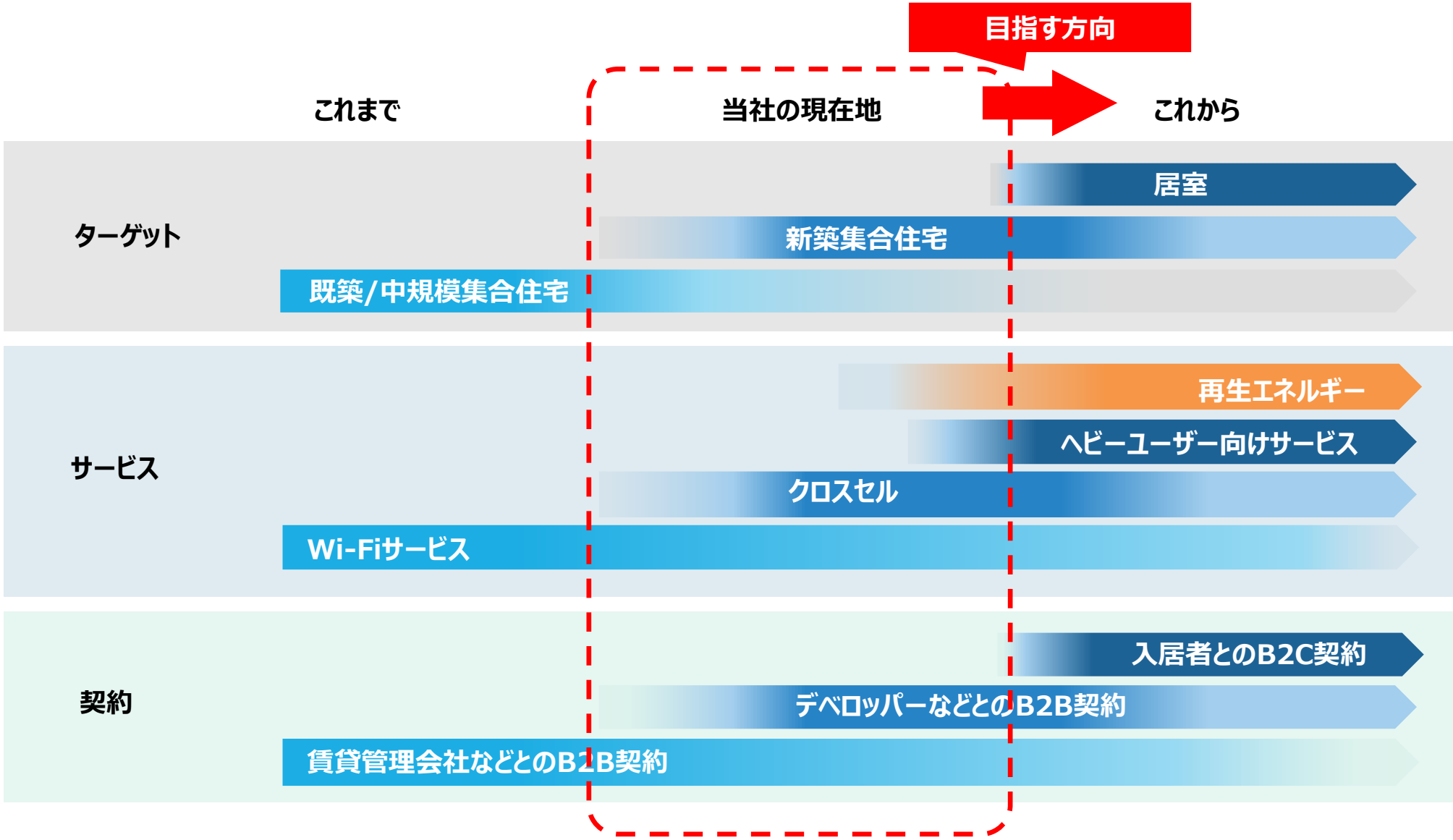
✓ 工事施工の内製化加速

内製工事売上想定
（連結決算では相殺消去）



©Fibergate Inc. all rights reserved.

ホームユース事業展開



©Fibergate Inc. all rights reserved.

ホームユース　B2Cスキーム

- 2026年8月24日に高速光回線「NURO」を展開するソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社と資本業務提携を発表
- 集合住宅の居住者から寄せられる、高速・大容量通信のニーズに両社で対応していく

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

SONY
Sony Network Communications Inc.

- 2026年9月1日に集合住宅向け光回線サービス、3プランの提供を開始

「プレミアムプラン powered by NURO」 ・・・・・・・・・ インターネット無料物件の入居者対象。入居者個別契約プラン

「FGBB光 Connect powered by NURO」 ・・・・・ 物件オーナー様が一括で導入。より高品質の通信環境を構築するプラン

「FGBB光 Select powered by NURO」 ・・・・・・・ オーナーの導入費用は0円。入居者が個別に申込むプラン

提携の狙い

- 競争環境の変化を踏まえ、全戸一括型業界に新しい価値を生み出す
- ユーザー目線のサービスプランを複数市場に投入し、多様化するニーズに対応していく

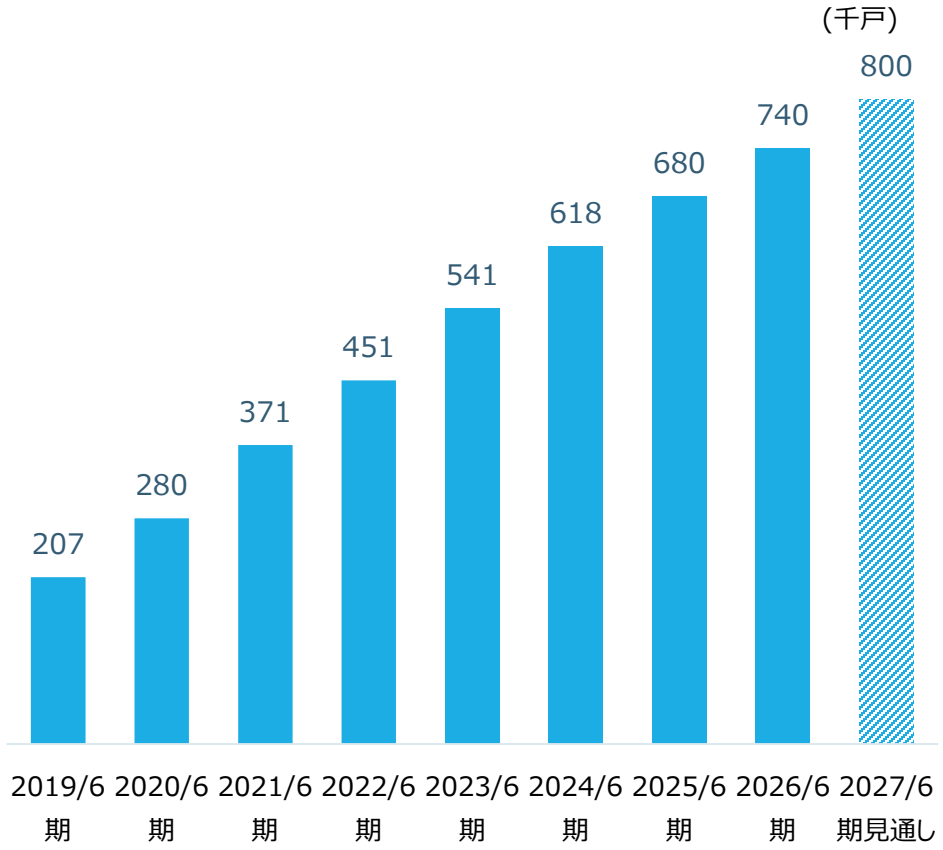
©Fibergate Inc. all rights reserved.

2027/6期連結決算主要前提

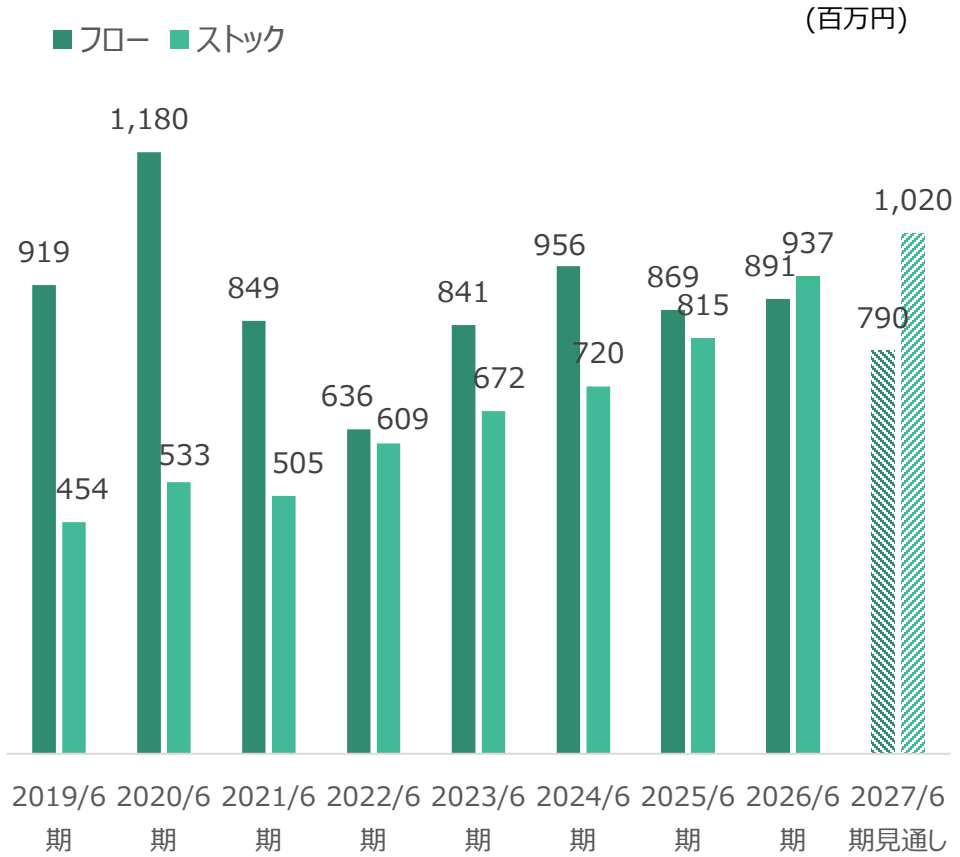
ホームユース事業　ビジネスユース事業

- レジデンスWi-Fiサービス期末接続済戸数前提は80万戸で変わらず。増加ピッチはほぼ前年並みの6万戸/年。新築案件の獲得がより重要ながら、既築案件の落ち込みには慎重に対応
- ビジネスユースにおけるフロー/ストック売上前提も据置き。事業先行指標となるフロー売上は一旦端境期として7.9億円の減収想定ながら、1Q時点では前年を上回るピッチを確保

レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数の推移



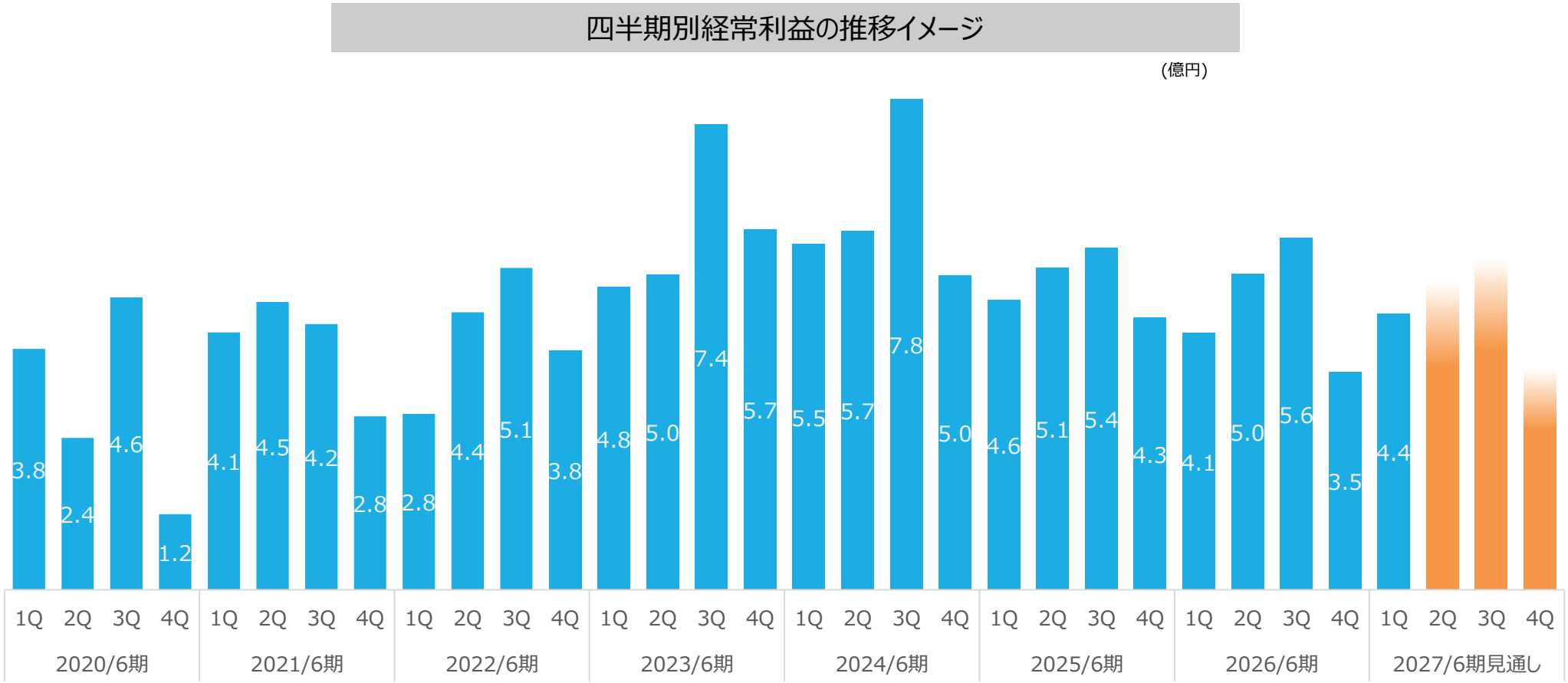
フロー/ストック別ビジネスユース売上高推移



©Fibergate Inc. all rights reserved.

2027/6期連結決算見通し　四半期別イメージ

- 四半期別には、3Qに向けて徐々に経常利益は増加すると想定
- 一方、4Qは季節要因から利益水準低下を見込む。これらはほぼ例年のパターン通り



©Fibergate Inc. all rights reserved.

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

Appendix
会社概要

©Fibergate Inc. all rights reserved.

ファイバーゲートグループ　パーパス

構内インフラ・インテグレーターとしての業態を確立し、

三方良しの精神をもって、

新たな経済価値を創造することにより、

豊かな社会の発展に貢献します。

通信とエネルギーの最大効率化を図り、構内インフラ・インテグレーターとしての業態を確立させます。
当社グループは、お客様に幸せ（利便性、快適さ）を提供し、取引先と共に経済活動を活性化させることで三方良しの構図をつくり、豊かな社会の発展に貢献することを目指します。

©Fibergate Inc. all rights reserved.

主要事業概要

ホームユース事業

Fibergate Inc.　SINCE1978 AIWA



集合住宅の物件オーナー向けに、全戸一括で入居者が「インターネット無料使い放題」となるインターネット接続サービスを、通信機器の開発・製造、設置工事、アフターサポートまでワンストップでサービス提供します。また、物件オーナーへ直接販売するほかに、プライベートブランドとして不動産関連会社へサービスの提供を行います。

FGBB

再生可能エネルギー事業

OffGrid Lab　Smart Green　Power Denki Innovation 株式会社パワーでんきイノベーション



再生可能エネルギーを活用した、「自家発電自家消費型」の電力供給を行います。太陽光パネルと蓄電池を設置し、自家発電した電力と電力会社から調達する電力をシステム運用する事で、最適な電力供給を行います。
ファイバーゲートの通信サービスと一緒に提供する事で、お客様の空間価値を高めるとともに、カーボン・オフセットにも貢献していきます。

SOLERIO　コスパワ

ビジネスユース事業

Fibergate Inc.　SINCE1978 AIWA



オフィス、公共施設、医療介護施設、倉庫など、さまざまな場所のデジタル化が進む中で、わたしたちはネットワーク構築と運用のプロフェッショナル集団として最適なネットワークソリューションを提供しています。また、フリーWi-Fi環境の整備も行っており、お客様のニーズに合わせた快適で安全な接続環境を提供します。

Wi-Fi NeX　SHINOBI FREE Wi-Fi　Wi-Fi BUS　eventWi-Fi

不動産事業

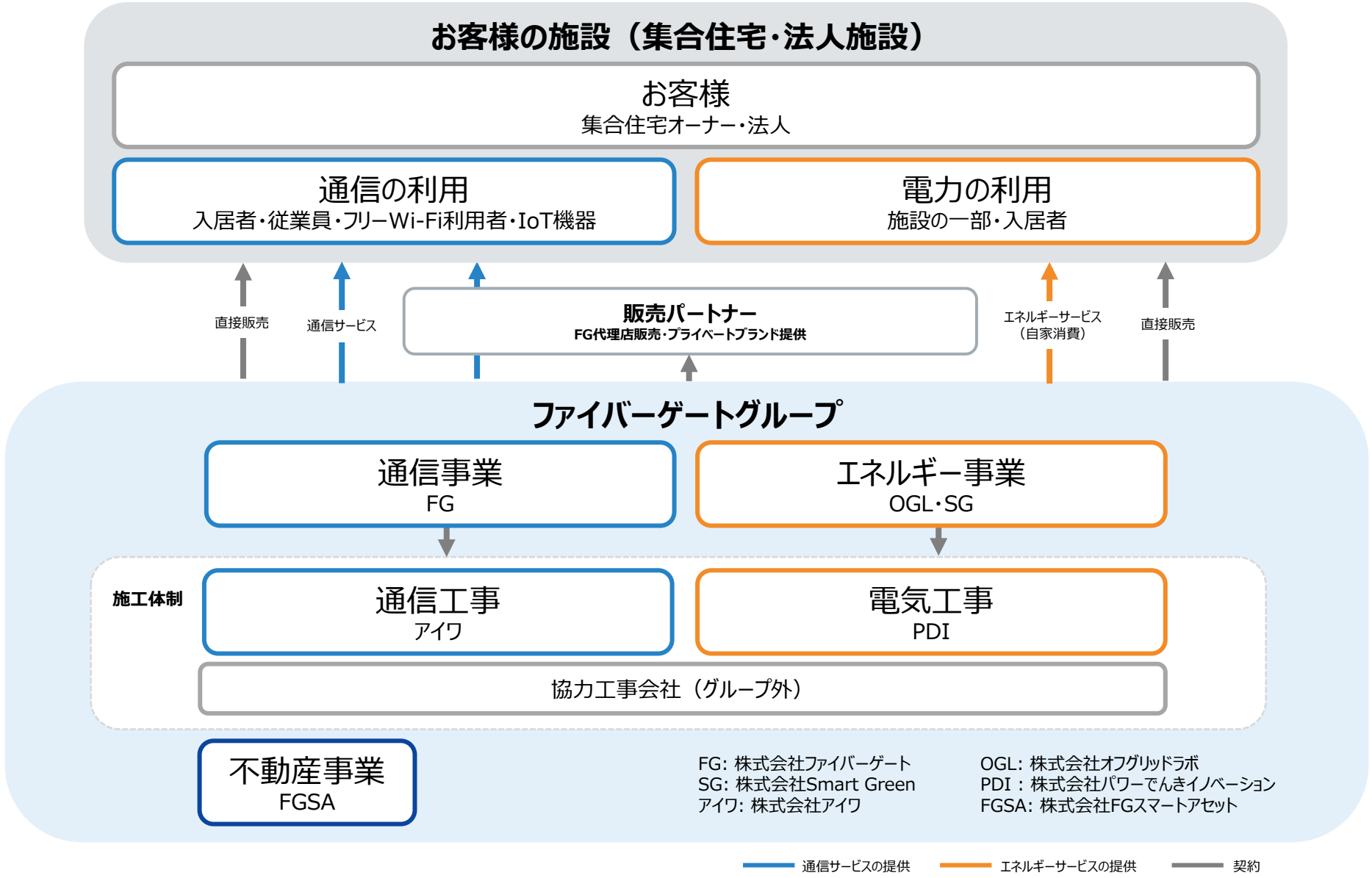
SA FG Smart Asset



スマートマンションの開発・仲介等を通して、ファイバーゲートグループのWi-Fi技術をベースにしたIoT ソリューションの促進を行います。

©Fibergate Inc. all rights reserved.

ビジネスモデル



©Fibergate Inc. all rights reserved.

構内インフラ・インテグレーター

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

Fibergate Inc.

構内インフラ・インテグレーター
On-Premise Infrastructure Integrator
通信×エネルギーをユーザーに一括提供

周辺機器/IoTサービス

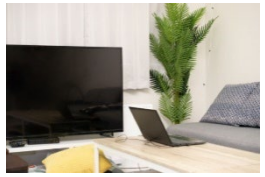
FGスマートコール



ネットワークカメラ



FGTV



PBX



Kagitouban

通信機器

ルーター



ホームIoT



再生可能エネルギー

SOLERIO

太陽光パネル



蓄電池



コスパワ

高圧電力サービス



EV充電ステーション



不動産

宅配BOX



©Fibergate Inc. all rights reserved.

想定主要ターゲット

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

ホームユース
Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

不動産
SA
FG Smart Asset

再生可能エネルギー
OffGrid Lab

ビジネスユース
Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

ユーザーに応じ
過剰でもない過少でもない
最適通信環境を一括提供

中小規模法人/事業主の悩み
- 大手ベンダーは不必要なハイスペック仕様の供給のみ
- 中小ベンダーは拡張性・機能性に欠ける提案が多い

ネットワーク化に不慣れな
中小規模法人/事業主


店舗


地方自治体


介護施設



宿泊施設


エンターテインメント施設


教育施設


医療施設

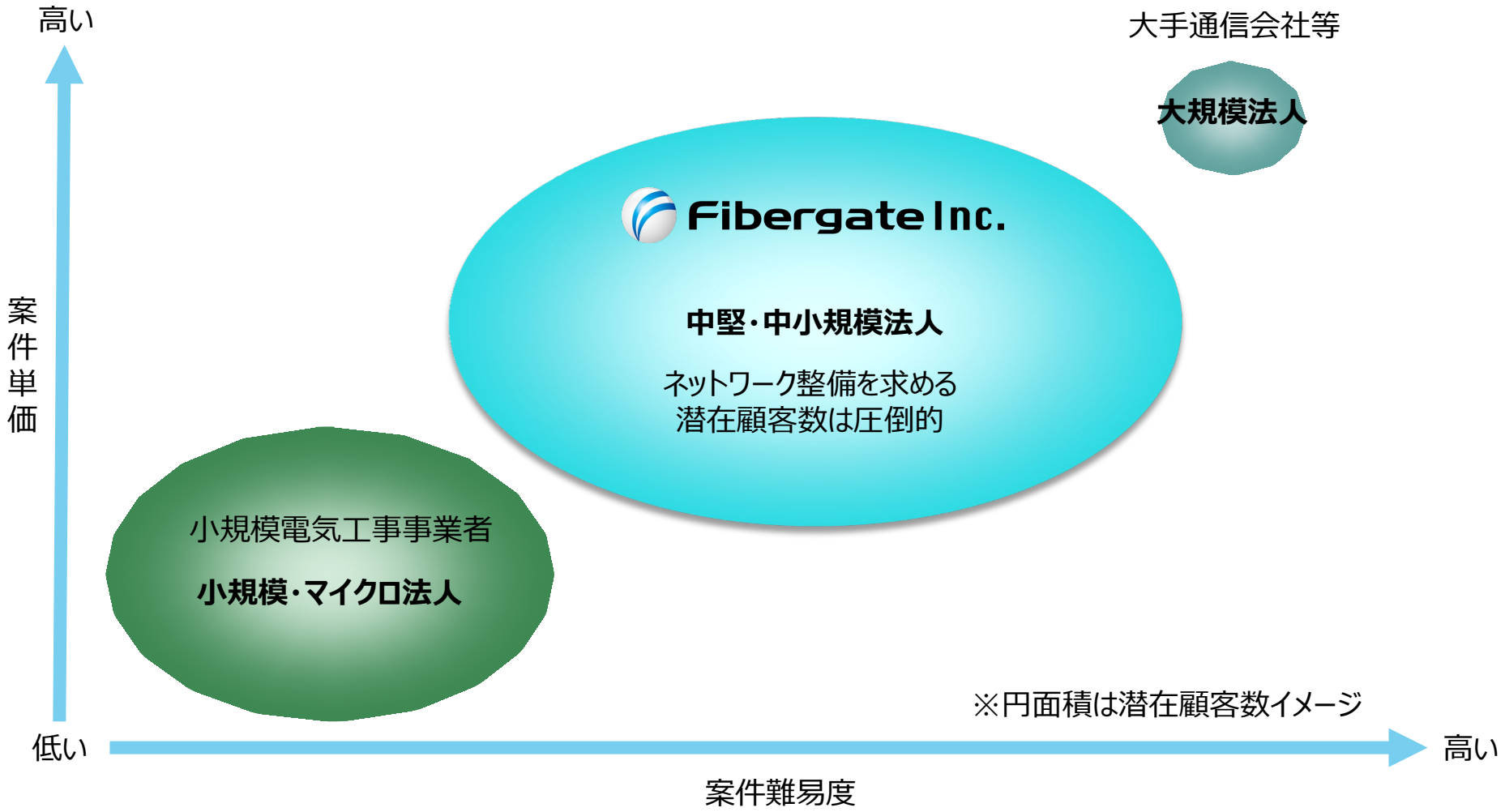

アパート/マンション


交通機関

©Fibergate Inc. all rights reserved.

当社のターゲット市場ポジション

- 中小企業の多くは独自でのインフラ構築が必須ながら、ノンコアであり非効率
- 規模的に大手が手をつけにくいところを当社がカバー



©Fibergate Inc. all rights reserved.

中期ビジョンと成長ステージ

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

第5成長ステージ

独立系Wi-Fiソリューション企業 → 構内インフラ・インテグレーター

その先の成長ステージ

総合インフラ・インテグレーター

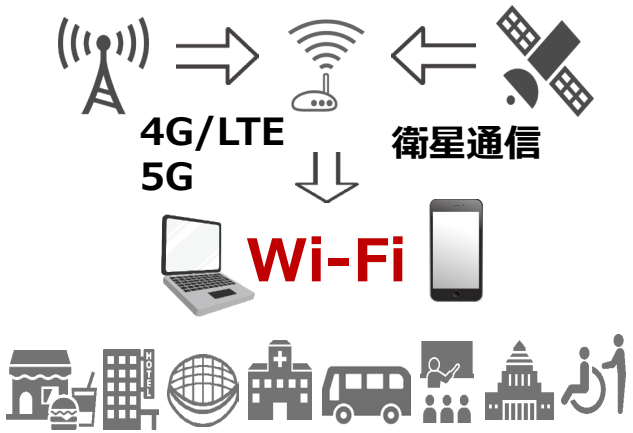
中期ビジョン

Step1

“すべての施設にWi-Fiを”

Alternative Carrier 構想の実現へ

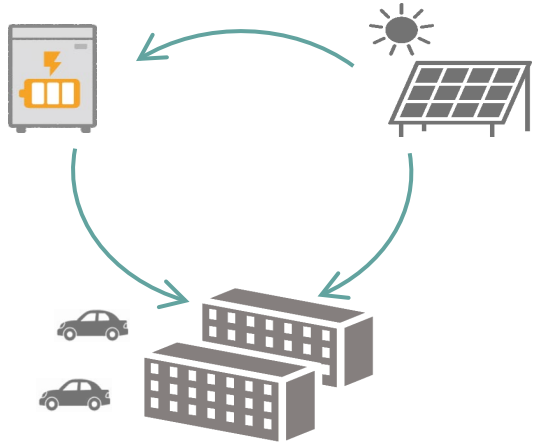
- ホームユース領域の拡大
- ビジネスユース領域の徹底強化



Step2

通信・再エネが作る
未来インフラの実現

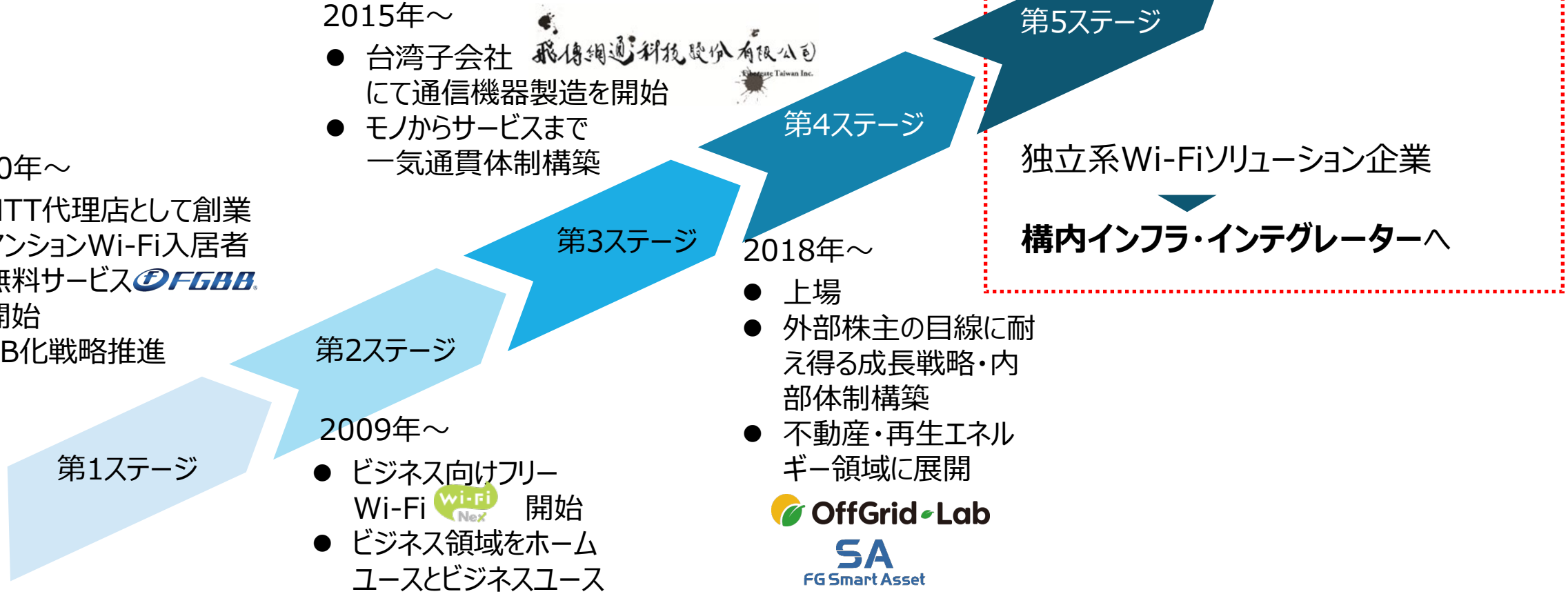
- ホームユース領域の進化
- 再生可能エネルギーとのシナジー発揮



©Fibergate Inc. all rights reserved.

成長ステージ

Fibergate Inc. 当社の成長ステージ概念



©Fibergate Inc. all rights reserved.

沿革

年	内容
2000	➢ 国内、国際電話サービスの加入取次を目的に仙台市若林区に会社設立
2003	➢ 札幌市中央区に本社移転 | 複数拠点企業のネットワーク構築、Webでのブロードバンド回線販売を主業とする
2004	➢ レジデンスWi-Fi事業を開始
2005	➢ Wi-Fiによるブロードバンド化サービスを開始
2006	➢ PB化支援による集合住宅向けインターネット無料サービスを開始
2009	➢ フリーWi-Fiサービス事業を開始
2014	➢ 当社開発通信機器の販売事業（Wi-Fiプロダクト事業）を開始 | PB化支援による店舗・商業施設向けWi-Fiサービスを開始
2015	➢ 電気通信工事業認可（北海道知事許可）を取得 | 台湾に100%子会社・飛博網通技股份有限公司を設立 | 電気通信事業法に基づく電気通信事業の登録免許を取得
2018	➢ 東京証券取引所マザーズ市場に上場
2019	➢ 東京証券取引所第一部（現プライム市場）に上場市場変更 | 札幌証券取引所に上場
2021	➢ 不動産関連事業を行う子会社FGスマートアセットを設立 | 再生可能エネルギー事業を行う子会社オフグリッドラボを設立
2022	➢ 不動産売買・保有を行うTMアセットの株式を取得
2024	➢ エネルギー関連代理店業を行う㈱エネパルスを設立
2025	➢ ソニーネットワークコミュニケーションズと集合住宅向け光回線サービス事業において提携 |東京証券取引所スタンダード市場に上場市場変更 | ㈱パワーでんきイノベーションの株式を取得
2026	➢ ㈱Smart Greenの株式を取得 | ㈱アイワの株式を取得 |ソニーネットワークコミュニケーションズと資本業務提携

©Fibergate Inc. all rights reserved.

財務ハイライト

決算年月		2019/6期	2020/6期	2021/6期	2022/6期	2023/6期	2024/6期	2025/6期	2026/6期
売上高	（百万円）	5,446	7,424	8,491	10,624	12,795	12,613	13,070	13,664
経常利益	（百万円）	886	1,215	1,543	1,604	2,290	2,395	1,943	1,811
当期純利益	（百万円）	550	722	1,019	1,073	1,482	1,567	1,319	1,082
資本金	（百万円）	426	479	488	494	494	494	494	494
発行済株式総数	（千株）	9,807	20,402	20,487	20,591	20,591	20,593	20,593	20,593
純資産額	（百万円）	1,981	2,710	3,677	3,279	4,758	5,836	6,502	6,995
総資産額	（百万円）	5,311	6,984	9,397	13,087	12,764	13,076	12,144	13,097
１株当たり純資産額	（円）	202.06	133.52	180.40	160.74	230.12	285.59	320.34	347.18
１株当たり当期純利益金額	（円）	57.60	36.19	50.11	52.60	72.70	77.20	65.20	53.79
自己資本比率	（%）	37.3	38.8	39.1	25.1	36.8	44.3	53.1	53.3
自己資本利益率	（%）	32.8	30.8	31.9	30.9	37.2	29.9	21.6	16.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	1,345	1,732	1,710	2,295	4,296	2,833	3,156	2,443
投資活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	▲1,389	▲2,071	▲2,256	▲2,626	▲2,189	▲2,377	▲1,564	▲1,461
財務活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	▲15	699	1,326	436	▲2,027	▲723	▲1,860	▲680
現金及び現金同等物の期末残高	（百万円）	1,058	1,415	2,196	2,303	2,382	2,120	1,853	2,156
従業員数	（人）	159	180	221	231	232	230	239	250

©Fibergate Inc. all rights reserved.

Fibergate Inc.
株式会社ファイバーゲート

＜ 見通しに関する注意事項 ＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画本部　IR担当
0120-772-322
fgir@fibergate.co.jp

©Fibergate Inc. all rights reserved.